

# 城北

## 地区発見

### 「口張町金」

今も残る城下町の街並み

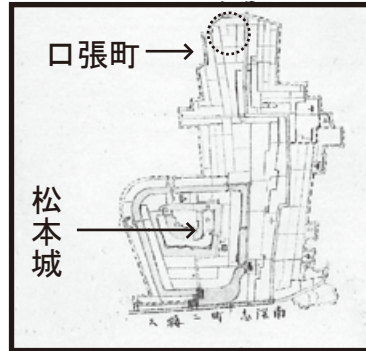
【国内唯一の町名?】

口張という町名は全国の城下町でも類例を見ない珍しいものです。享保 9 年編纂の信府統記に記載があり松本城が築城された 17 世紀前半にはこの地名でした。

その由来は諸説あり、松本



平成 26 年 9 月 1 日 現在	
総世帯数	3,523
総人口	7,676
男	3,675
女	4,001



市史は紅梅町と記載し、紅梅の木があった事に起源し「こうばい」が後年「こうばり」に転訛したとしています。又、この地域は東に善光寺街道が通っており、人々や物資の往来も多く城下への出入りを見定める「同心番所」があり、出入口口を見張る意味との説が有力とされています。

### 【新旧の入り混じる町】

城下町の最北端に位置し、江戸時代特有の迷路状で細い道と奥に細長い武家屋敷はたび重なる大火で焼失しましたが、当時の区画が現在も受け継がれています。

北側に皇紀二千六百年記念

道路が整備され周辺の開発が進むとともに、40 戸以上あった個人宅は 22 戸に減り、入れ替わるようにアパート・マンションが建ち、新たな入居者には信大生も多く年配者と若者の混在する町です。

口張・同心・萩町 3 町会が催事で連携して活動しているのも他とは違う側面でしょう。

## 「手前うどん」舌づつみ 男の料理教室

9 月 12 日 徒士町の丸山博通さんを講師に「男の料理教室」が開かれ、40 代から 80 代の 16 人がうどん作りに挑戦しました。

講師の丸山さんは、40 数年前にうどんを打つ母親の姿を見てから、さまざまな工夫を重ねうどん作りに取り組んできたということです。

そして、今年 2 月の料理教室に参加して、うどん作りを趣味にしていることを話したために、この日の



「家で自作してみますか」の問いには「麺棒や延べ板を揃えなければ」とちょっと気が引けたようでした。因みに、うどんに添えた天ぷらは、食生活改善推進協議会の皆さんの協力でした。

講師にお願いしました。うどん作りは、初めに中力粉に塩水を注いで練り上げますが、参加者は、力の入れ方が難しなどと言いつつ、玉がふつくら発酵するまでの間につけ汁を作りした。

この後、いよいよ麺づくりに挑戦です。麺棒を自在に操りながら、というわけにはいかず長い麺棒に四苦八苦しながら薄く延ばしました。

そして、大きな麺切り包丁を使ってうどんに仕上げましたが、細かったり太かったり形は様々なうどんが出来上がりました。

早速打ち立てのうどんを煮えたつたお湯に入れ茹で上げ、2 時間かけてようやくお楽しみを試食会になり、手前うどんに舌づつみを打ちました。参加者の感想は「われながら良くてきた」「思ったより簡単だった」と自画自賛でしたが「家でも作ってみますか」の問いには「麺棒や延べ板を揃えなければ」とちょっと気が引けたようでした。

## 城北地区市政 まちかどトーク

8 月 6 日 当地区では 4 年ぶり 3 回目、今年度 35 地区最初の市政まちかどトークが菅谷市長・坪田副市長はじめ各部署の部長及び地域住民 70 名が出席して城北公民館で行われました。

菅谷市長と北原連合会長のあいさつの後、地区の取り組みを蟻ヶ崎東の細萱町会長が紹介し、今年初めての試みとなる城北地区健康づくり推進の日への支援をお願いしました。

住みよい街づくりを考える会 三村会長からは地域づくりセンターについて、後藤田町町会長からは災害時に備えて転入者の方の町会加入推進方法について、また由井蟻ヶ崎児童館長からは蟻ヶ崎児童館老朽化に伴う移転について、各々要望が出されました。



人権学習講座「平和を語る会」  
城北地区人権啓発推進協議会主催

## 元海軍予科練生 特殊潜航艇「海竜」を語る



あの頃は紅顔の美少年

終戦から 69 年目の夏。今年  
は蟻ヶ崎東町会の折井湛さんが  
15 歳で予科練に入隊してか  
ら終戦までの体験を語り、50  
名の参加者が興味深く聞き入  
りました。

昭和 18 年、旧制中学の 3 年  
生であった折井さんは 7 つボ  
タンの予科練に憧れて奈良海  
軍航空隊に入隊しました。航  
空戦力を拡大するため折井さ  
んら 13 期甲種飛行予科練習生  
は 2 万人以上いました。一挙  
に増加した生徒を教育するた  
めに新設された宝塚航空隊に  
転入しましたが、乗る飛行機  
はもう残り少なくなっており、  
パイロットへの志望が認められ  
たのはわずかでした。折井さん  
も含め多くの卒業生は心なら  
ずも回天や海竜などの海の特  
攻要員にまわされたのです。  
辛く厳しい訓練の記憶はか

### 海の特攻兵器

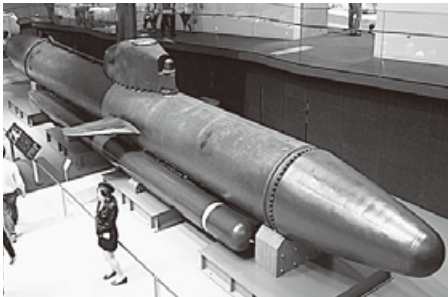
回天：魚雷に人間 1 人が入り  
目標に向かって操縦して体  
当たりする。人間魚雷とも  
呼ばれている。

海竜：小型の有翼潜水艇で魚  
雷 2 本を装着する仕様で  
あったが、終戦近くは魚雷  
がなく艇首に 600 kg の炸  
薬を装填、人間 2 人が中  
に入って操縦し敵艦に体当た  
りする回天同様の仕様にな  
っていた。昭和 20 年 4 月  
から量産され 200 隻余が  
完成。各地の突撃隊に配置  
され本土決戦に備えたが使  
用されることはなかった。

りの中、宝塚航空隊時代には唯  
一楽しかった思い出がありま  
す。資産家の邸宅が借り上げら  
れ予科練生の憩いの場（俱樂  
部）になっていました。折井さん  
らも日曜日になると俱樂部に  
駆けつけ、赤飯、おはぎ、蒸しパ  
ンなどをご馳走になりました。後、あ  
の時の俱樂部はヤンマージュー  
ゼルの社長の邸宅だったとわかり  
ました。俱樂部のおぼちゃんへ  
の感謝の気持ちは戦後も続き、  
100 歳で亡くなるまで仲間

と花を贈ったということ。す。  
昭和 20 年 3 月、呉潜水学校  
柳井分校に転入させられ、  
2 ヶ月で横須賀突撃隊に編  
入。海竜の搭乗員になるための  
訓練を受けた後、本土決戦に  
備え伊豆特攻基地で待機して  
いるところで終戦となりまし  
た。

『お国のため』と志願して  
入った予科練で夢中で過ごし  
た 1 年数ヶ月の体験を「少年  
たちは消耗品の兵器であった、  
帰ることも出来ない特攻兵器  
に人間を乗せて自爆させるこ  
とを考えた人達がいたと思う  
だけでも肌寒さをおぼえる」  
と振り返り「これからの若者が  
そんな目にあわないように、戦  
争にならないためにはどうし  
たらよいかを考えていかなけ  
れば」と繰り返し訴えておら  
れました。



海竜：全長 17.2m 直径 1.3m  
(呉市大和ミュージアム)



旭町小火花



蟻ヶ崎台



蟻ヶ崎東



蟻ヶ崎東  
ラジオ体操



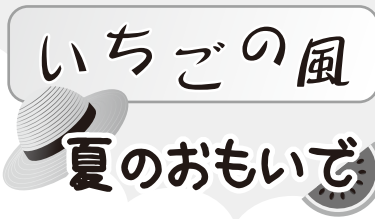
沢村



蟻ヶ崎北ラジオ体操



国営アルプス安曇野公園



白金



公民館お泊まり会



蟻ヶ崎北



北馬場の井戸

